

大手門復元基本構想の策定について

大手門復元の令和 18 年（2036 年、伊達政宗没後 400 年）の完成に向け、復元事業の全体像を具体化し、市民や関係者と広く共有するため、令和 7 年度に大手門復元基本構想を策定する。

1 策定の背景

- ・大手門復元は、市民の間で令和 18 年までの完成への期待が高い
- ・これまで取り組んできた史資料調査や発掘調査に一定の目途がたった
- ・大手門復元事業は内外に調整すべき関係部署や機関が多く、市民生活への影響もあることから、事業の全体像を早期に具体化し、イメージの共有や調整を図る必要がある
- ・文化財の保存と活用の計画的促進等を目的として文化財保護法の一部が改正され、地域活性化に資する観光資源としても整備の機運が高まっている

2 大手門の既存計画上の位置付け

「史跡仙台城跡保存活用計画」

→活用のために復元整備する対象に位置付けている。

解決すべき課題があり継続的な検討が必要なものの、復元整備に至るまでの間は可能な範囲での調査と、調査成果の公開や活用を進めることとしている。

「史跡仙台城跡整備基本計画」

→条件が整った場合に遺構表現整備する対象として位置付けている。

現在の事業期間（令和 12（2030）年まで）では「復元関連基礎調査」（史資料調査や発掘調査等）を行い、復元整備は次期事業期間（令和 13（2031）～20（2038）年度）での実施を想定している。

3 整備基本計画における基本構想の位置付け

大手門の復元に向けては、これまで取り組んできた「復元関連基礎調査」の成果を踏まえて整備事業の全体像や基本的な方向性等を検討し、将来の整備基本計画や保存活用計画の改定、国の復元検討委員会での議論、設計・工事等につなげていく必要がある。

このため、基本構想の策定は、「復元関連基礎調査」の一部をなす、現行計画を補完修正する取組みと位置付け、将来の計画改定の参考としていく。

4 基本構想の構成案

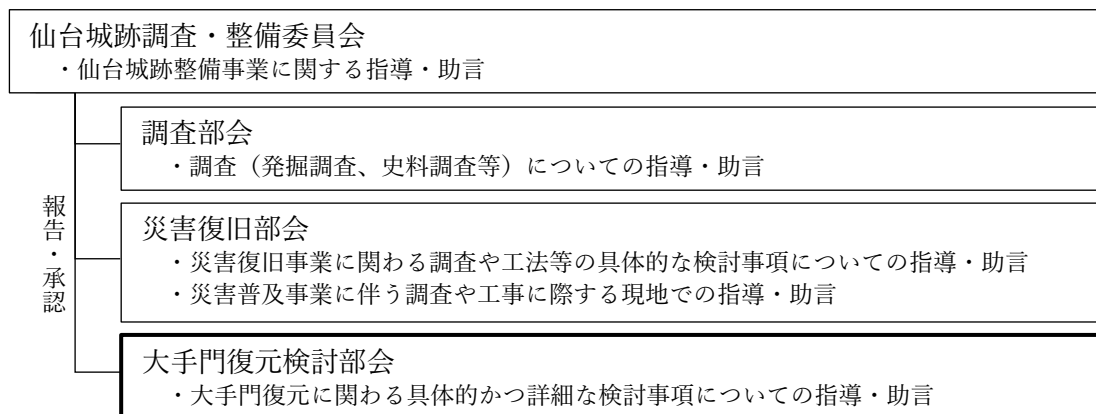
基本構想にはおおむね下記の内容を盛り込み、分量は 10 ページ前後を想定。

- ①基本的な考え方：大手門復元の意義について
- ②整備対象・エリア：復元の対象とする建造物（大手門、脇櫓）や整備エリアの設定
- ③整備内容等：復元時期、使用する材料・工法、整備後の使用方針、大手門周辺の道路の使用、整備イメージ（パース図）の作成
- ④スケジュール：令和 18 年までの設計や工事のスケジュール
- ⑤概算事業費：総事業費とその内訳（大手門、脇櫓、周辺整備）

5 策定に向けた体制

- ・基本構想の策定にあたり、本委員会に対し、構想案の報告・意見聴取を随時行っていく。
- ・基本構想策定に向けた検討を円滑に行うため、本委員会に「大手門復元検討部会」を設置し、詳細事項の検討を行う。部会での協議内容は本委員会に報告し、承認を受ける。

＜委員会と部会の関連図＞



＜大手門復元検討部会 構成案＞ ※部会の構成員は今後必要に応じて追加

分 野	氏 名	備 考
考古学	藤澤 敦	仙台城跡調査・整備委員会委員長 東北大学教授
考古学・ 城郭石垣	北野 博司	仙台城跡調査・整備委員会副委員長 東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター長・教授
古建築	永井 康雄	仙台城跡調査・整備委員会委員 山形大学教授
地盤工学	山中 稔	仙台城跡調査・整備委員会委員 香川大学教授

6 今後の予定 ※現時点のものであり、変更の可能性あり

令和7年

- 5月：大手門復元検討部会（①基本構成）
- 7月：大手門復元検討部会（②素案）
- 8月：仙台城跡調査・整備委員会（①素案）
- 10月：大手門復元検討部会（③中間案）
- 11月：仙台城跡調査・整備委員会（②中間案）
- 12月：パブリックコメント

令和8年

- 1月：大手門復元検討部会（④パブリックコメント報告）
仙台城跡調査・整備委員会（③パブリックコメント報告）
- 3月：仙台城跡調査・整備委員会（④最終案）
策定